

第6学年○組 道徳科学習指導案

平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者

- 1 主題名 自分の本当の想いを
- 2 ねらい 正直、誠実に生きることについて多様な考え方を話し合い吟味することを通して、自分の気持ちに偽りのない心で向き合い、真面目に真心を込めて生活することが大切であることを理解し、誠実に明るい心で生活する態度を育てる。

教材名 「手品師」（出典：「新しい道徳 6」東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本内容項目は、偽りなく真面目に真心を込めて明るい心で生活することを扱う。自分らしさを発揮するためには、自分の気持ちに偽りのないようにし、真面目に真心を込めて明るく生活するように心掛けることが大切である。相手の信頼を失わないためにも自分自身に対する真面目さ誠実さ、心の明るさが必要である。指導要点は、自分自身に対する誠実さがより一層求められるこの時期を踏まえ、より明るい心をもって行動することや、真面目さを前面に出して生活することで自己を向上させる態度を指導することである。

指導に当たっては、一人一人の誠実な生き方を大切にしながら、みんなと楽しい生活ができるようにしていくことが大切である。誠実さに欠ける行為は後ろめたさを感じることになり、誇りや自信を失うことに繋がることも指導する必要がある。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

一学期は、自主的に活動し、自分の考えをきちんともち、相手の立場に立って行動する児童の育成に力を入れて指導してきた。その中で一年生と交流を深めたり、思いやりの心をもって行動したりすることの大切さを学んだ。自分たちで計画し、自ら行動することの大切さとともに、真面目に働く誠実さの意味や大切さを理解してきた。しかし、一方では自己中心的である児童も見受けられ、真面目さや誠実さには程遠い児童もいる実態である。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、ある日町で男の子と出会い、何気なく「手品を見せる」約束を交わした手品師が、その夜、友人から「大劇場に出られるチャンス」をもらった。手品師は男の子との約束を守ろうか、大劇場に行くか迷ったが、考えた末、男の子との約束を優先させ、次の日たった一人の男の子の前で手品を演じたという内容である。

手品師が「大劇場に出られるチャンスだぞ」と言われた場面を取り上げ手品師の心の中を探る。男の子との約束に対する多様な考え方を引き出し、話し合いを通して手品師が男の子との約束にどう向き合っているか心の中を探っていく。「大劇場に行く」それとも「約束を果たす」の選択について吟味し、誠実に生きることの大切さを自己の生き方と合わせながら考えさせ、道徳性を高次へ導いていく。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 約束とはどんなものかについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・守るもの ・守れないときもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値へ方向付けする。
展開	<p>2 「手品師」を読んで考える。</p> <p>(1) 手品を見て喜び、元気を取り戻す男の子を見ている手品師はどんな気持ちでしょう。</p> <p>(2) 「大劇場に出られるチャンスだ」と電話で聞いたときの手品師の心の中はどんなでしょう。</p> <p>(3) 男の子の目の前で手品をする手品師は、どんな気持ちでしょう。</p> <p>◎大劇場に行くにせよ、男の子に手品を見せるにせよ手品師の心にある共通点はなにか。</p> <p>3 自己を見つめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手品をしてよかったな ・元気になってよかった ・もっと喜ばせたい ・夢が叶う ・チャンスをいかそう ・約束どうしよう 〈大劇場に行こう〉 ・夢を叶えるため ・チャンスだから ・友達が声をかけてくれたから 〈約束を果たそう〉 ・がっかりさせちゃうから ・約束を破って行ってもすっきりしない ・喜んでくれて嬉しい ・約束を守ってよかった ・手品で人を喜ばせること ・手品で人を笑顔にさせること ・約束を守れないときでも、相手のことを考え悩んでいる。 ・約束を守ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単に主人公の紹介をしてから範読する。 ・手品師の喜びは、人を喜ばせ、幸せにすることが願いであることを押え、中心発問に移っていく。 ・<u>児童の考えを「大劇場に行こう」「約束を果たそう」に分け、それぞれの理由を問い、多様な考え方を引き出し板書していく。</u> ・<u>ねらいに迫る本質的な問いを投げかけ主人公の生き方を通して、誠実に生きることについて自己の生き方を考えさせていく。</u> ・男の子との約束を果たすことが誠実な生き方であると一面的に捉えない。 ☆自分の都合だけでなく男の子の気持ちを考え約束と向き合うこと、多くの人を喜ばせるために手品をすることが自分に正直であることだと気付く発言や記述がみられたか。 ・人を喜ばせたいと思い腕を磨いていた手品師の願いを大事にしたいとする考えを高めていく。 ・これまでの自分を振り返らせ、自己を見つめさせていく。
終末	4 教師の話を聞く		<ul style="list-style-type: none"> ・教師の説話、本時をまとめる。

5 評価の視点

- ・自分の都合だけでなく、男の子の気持ちや約束と向き合い、多くの人を喜ばせるために手品をすることが自分に正直であると言うことを発言している。

【板書写真】

大劇場に
出られるチャンス

盛り上げる
失敗しないよう
みんなを楽しませたい

大劇場へ行く

手品師

約束を早たす
おわりそう
笑顔を
約束だから

正直

人を喜ばせたい

喜びたい心
誰かへ
人人を笑顔に

楽しか
い

達成感
が
ある

人生が
始まる

お金

はりね
子泣き一筋

第17回 道徳

最適解